

伝統と未来をつなぐ 新しい学び舎 本郷西小学校が開校します

地域に支えられ、見守られながら月日を重ねてきた船木・北方・南方小学校。その伝統や子どもたちと地域の人たちが結んで来た絆は新しい学び舎へと受け継がれ、今月から本郷西小学校として新しい一歩を踏み出します。

本郷西小学校 校歌

一 緑 深き 高山に

明るい あいさつ こだまする

自然あふれる 学び舎で

さらさら ひとみ かがやかせ

笑顔で 学ぼう 本郷西小

二 流れ 清き 沼田川は

願いを 抱いて どこまでも

ぬくもりあふれる 学び舎で

心と からだ 磨きあう

元気で 伸びよう 本郷西小

三 歴史 きらめく ふるさとの

文化 伝統 うけつごう

光あふれる 学び舎で

夢と 希望を 語りあう

未来へ はばたく 本郷西小

確かな学力

読書や調べ学習ができる空間を整え、授業以外にも反復学習の時間を設けるなど、基礎学力の定着を図ります

本郷西小学校の 取り組み

豊かな心

恵まれた自然で各校が行なってきた活動を発展させ、感性豊かな子どもを育てます

健やかな体

広いグラウンドや体力づくりに効果的な遊具を授業や休憩時間に活用し、健やかな体を養います

☎教育振興課
学校教育部
☎0848・67・6152
☎0848・67・6155

開校までの準備

子どもたちが安心して、新しい学校での生活を迎えられるように、昨年度から各校で指導方法を擦り合わせたり、合同行事を行ったりしてきました。



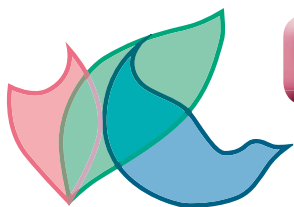
▲社会見学



▲算数の授業



▲アユの放流体験



校章

本郷町の豊かな自然と3校が一体になることを、花びら・葉・鳥が重なるデザインで表現。のびやかな曲線には、子どもたちに優しい心でのびのびと成長してほしいという願いが込められています。



本郷中学校総合文化部の皆さんと
岡本博実さん(写真の最後列)

デザイナーの岡本博実さんの指導のもと、本郷中学校総合文化部の生徒がデザインしました。本郷を象徴するさまざまなキーワードからデザインを発想するという手法で取り組んだ生徒は、「全員で協力して考えた校章が、学校のしるしとして使われるのは誇らしいです」と声を揃えます。

岡本さんも「若いアイデアが生かされ、新しい学校にふさわしい新鮮な校章になりました」と振り返ります。



校歌

作詞・作曲
にしほらかずま
西原一満さん
毛筆で清書した
せんだなこ
千田 菜々子さん

作詞・作曲を担当したのは、本郷町の元音楽科教師 西原一満さんです。「豊かな自然や新しい校舎で過ごす子どもたちの姿を、覚えやすいメロディーに乗せました。元気よく歌ってほしいです」と言います。

体育館に掲げられる歌詞を筆で書いた千田 菜々子さん(当時は本郷中学3年生)は、「歌い継がれていく校歌を書けて光栄です。学校生活を楽しく送る力になれば」と、一文字一文字に願いを込めました。

学校教育目標

夢と志をもち
たくましく生きる
子どもの育成

自分の夢や目標に向かって積極的に学び考える子ども、心も体もたくましい子ども、地域が大好きな子どもを育成します。

子どもたちの学力定着を図れる環境を整え、家庭・地域から信頼され、愛される学校をめざします。

広い中庭



校舎の紹介

情報センター



多目的ホール



校舎は、旧南方小学校を改修し、新たに教室棟を増設しました。外観はクリーム色を基調とした外壁や赤い屋根で、小学校らしい温かさと優しさが感じられるようにしました。

図書室とパソコン教室が一体となった情報センターを設け、読書や調べ学習、自主勉強ができる学びのスペースを確保しました。

旧ランチルームは多目的ホールに改修し、プロジェクトや冷暖房を備えました。集会や学年間交流など子どもたちの活動だけでなく、保護者や地域の皆さんの交流の場としても活用できる空間にしました。

「ありがとう」「これまでも、 これからもずっと」

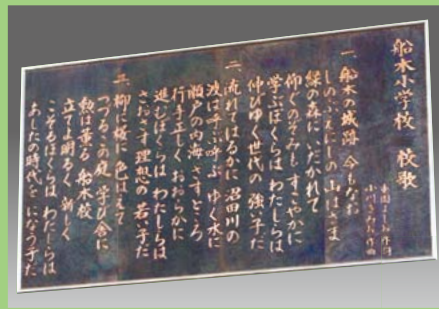
先月20日、本郷の船木小学校・北方小学校・南方小学校で閉校式が行われました。それぞれの校旗が返納され、3校は在校生や卒業生、地域の人たちに見守られながら、その長い歴史に幕を下ろしました。

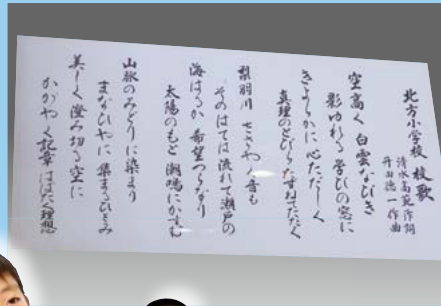
閉校記念行事では、出席者全員による人文字の撮影（船木小）、在校生数にちなんだ長さ27mの巻き寿司作り（北方小）、地域の人と練習を重ねてきた和太鼓演奏（南方小）などが行なわれ、参加者全員がそれぞれの思いで学校に別れを告げました。

慣れ親しんだ学び舎で過ごした思い出や育んだ絆は、これからもずっと未来へと受け継がれていきます。



船木小学校 いくぶんしゃ 明治3年 郁文舎として創立





北方小学校 明治6年 めいげんかん 明膳館として創立

南方小学校 明治6年 せきいんしゃ 惜陰舎として創立

